



～ 「2020年に注目すべきこと」 ～

理事長 奥山葉月

今年(ことし)はオリンピック・パラリンピックが開催(かいがい)されます。2年(ねん)ほど前(まえ)から、私(わたし)たち障害者(しょうがいしゃ)の周り(まわり)でもパラリンピックに向けて、変化(へんか)を感じる(かんじる)ことが多(おほ)くなりました。ときには企業(きぎょう)から障害(しょうがい)当事者(とうじしや)としての意見(いけん)を求め(もと)められたり、ときにはいつも出前(でまへ)講座(こうざ)(学校(がっこう)関係(かんけい)へ出向(でむ)き、障害(しょうがい)について(について)の話(わたり)、車(くるま)いす体験(たいけん)、ブライندウォーク(ブラインドウォーク)体験(たいけん)など(など)から共(とも)に生(な)きることを考(かんが)える授業(じゅぎょう)を行(おこな)う)のご依(よ)頼(らい)をい(い)ただ(い)いでいる学(が)校(こう)から障(しょう)害(がい)者(しゃ)スポ(スポ)ーツ体(たい)験(けん)のリクエ(リクエ)ストをい(い)ただ(い)いでいた(い)りと、さ(さ)ま(さ)ざ(ざ)ま(ま)です。

「おもてなし」「おもいやり」は日本(にほん)のと(と)ても良(よ)いところ(ところ)で、オリ(オリ)ンピッ(ンピッ)ク・パ(パ)ラリン(リン)ピッ(ピッ)クを機(ま)に、外(がい)国(こく)から日本(にほん)を訪(おと)ずる方(かた)にと(と)つて、日本(にほん)のよ(よ)さ(さ)を感(かん)じて(じて)も(も)ら(ら)え(え)る機(ま)会(かい)だ(だ)と思(おも)います。し(し)か(か)し、日本(にほん)に住(す)む障(しょう)害(がい)者(しゃ)は毎(まい)日(じつ)、い(い)つ(つ)で(で)も「おもてなし」「おもいやり」だけ(だけ)で生(せい)活(かつ)を送(おく)れるわ(わ)け(け)ではあ(あ)り(り)ま(ま)せ(せ)ん。な(な)ぜ(ぜ)な(な)ら、こ(こ)れ(れ)ら(ら)は相(あ)手(て)があ(あ)つ(つ)て(て)の、ま(ま)た(た)相(あ)手(て)がそ(そ)う(う)し(し)たい(たい)と感(かん)じた(じた)とき(とき)に(に)行(おこな)われる(われる)行(こう)為(ゐ)であ(であ)つ(つ)て、不(ふ)確(かく)実(じつ)な(な)もの(もの)だ(だ)か(か)ら(ら)で(で)す。

では、確(かく)実(じつ)な(な)もの(もの)とは、な(な)ん(ん)で(で)し(し)ょう。そ(そ)れ(れ)は法(ほう)的(てき)根(こん)拠(きょ)で(で)す。2006年(ねん)に国(こく)連(れん)で採(さい)択(たく)さ(さ)れた「障(しょう)害(がい)者(しゃ)の権(けん)利(り)条(じょう)約(やく)」に、日本(にほん)は2014年(ねん)に批(ひ)准(じゆん)し(し)ま(ま)し(し)た。批(ひ)准(じゆん)した(した)国(こく)は国(こく)連(れん)に報(ほう)告(こく)する(する)こ(こ)と(と)に(に)な(な)つ(つ)て(て)お(お)り、2016年(ねん)日(にっ)本(ぽん)政(せい)府(ふ)は「第(だい)1回(かい)政(せい)府(ふ)報(ほう)告(こく)」を提(てい)出(しゅつ)して(して)い(い)ま(ま)す。そ(そ)れ(れ)を(を)受(う)け(け)今(ことし)年(ねん)、国(こく)連(れん)・障(しょう)害(がい)者(しゃ)権(けん)利(り)委(い)員(いん)会(かい)(以(い)下(か)、委(い)員(いん)会(かい)と略(りやく)す)では、障(しょう)害(がい)者(しゃ)権(けん)利(り)条(じょう)約(やく)の实(じっ)施(し)状(じょう)況(きやう)に(に)つ(つ)いて(いて)の日本(にほん)の建(けん)設(せつ)的(てき)対(たい)話(わ)(審(しん)査(さ)を)実(じっ)施(し)さ(さ)れる(れる)予(よ)定(てい)で(で)す。障(しょう)害(がい)者(しゃ)当(とう)事(じ)者(しゃ)、家(か)族(ぞく)団(だん)体(たい)が中(ちゅう)心(しん)と(と)な(な)った日本(にほん)障(しょう)害(がい)者(しゃ)フ(フ)ォ(ォ)ー(ー)ラ(ラ)ム(JDF)か(か)ら(ら)は、委(い)員(いん)会(かい)に(に)お(お)ける(ける)建(けん)設(せつ)的(てき)対(たい)話(わ)で(で)的(てき)確(かく)に(に)審(しん)査(さ)さ(さ)れる(れる)よ(よ)う(う)、昨(さく)年(ねん)、パ(パ)ラ(ラ)レ(レ)ル(ル)レ(レ)ポ(ポ)ー(ー)ト(ト)(そ(そ)の(の)国(こく)のNPOや障(しょう)害(がい)者(しゃ)団(だん)体(たい)がこ(こ)う(う)い(い)つ(つ)た(た)問(もん)題(だい)が(が)あ(あ)る(る)と(と)独(どく)自(じ)に(に)ま(ま)と(と)め(め)て(て)提(てい)出(しゅつ)す(す)る(る)も(も)の(の)で(で)、委(い)員(いん)会(かい)で(で)重(じゅう)要(よう)な(な)判(はん)断(だん)材(ざい)料(りょう)と(と)さ(さ)れ(れ)て(て)い(い)ま(ま)す。

2020年(ねん)を(を)迎(むか)え、オリ(オリ)ンピッ(ンピッ)ク・パ(パ)ラリン(リン)ピッ(ピッ)クだけ(だけ)で(で)な(な)く、「障(しょう)害(がい)者(しゃ)の権(けん)利(り)」に(に)つ(つ)いて(いて)も、注(ちゅう)目(もく)し(し)て(て)い(い)た(た)だ(だ)け(け)た(た)ら(ら)と願(ねが)い(い)を(を)込(こ)め(め)、年(ねん)始(し)め(め)の(の)ご挨拶(あいさつ)と(と)さ(さ)せ(せ)て(て)い(い)た(た)だ(だ)き(き)ま(ま)す。

ふくし 福祉ホットライン《障害者地域自立生活支援センター事業》 じぎょう 事業報告

2019年度 立川市障害者週間イベント ～ひろがる輪 つながる輪 五輪へはばたけ立川の輪～

国が定める障害者週間に合わせて、昨年12月2日～8日に立川市でもイベントを開催しました。障害のある方の福祉について広く市民へ理解を深めて頂くとともに、障害のある方の社会参加を進めることを目的として、毎年市内の福祉団体や支援機関で実行委員会を開催し、企画や準備を行っています。今年度は2020年東京オリンピック・パラリンピックに向け、テーマを「パラスポーツ」としました。

■展覧会

12月2日(月)～7日(土) 10:00～16:00 立川市役所 1階多目的プラザ

「市内小学4年生が描いた絵」「市内障害者福祉関係団体の活動紹介パネル」「競技用車いす(バスケット・マラソン)」などの展示を行いました。今年の来場者は562名と、たくさんの方々には足を運んでいただきました。来場された方からは「子供たちの絵がよくかけている」「来年はオリンピック、パラリンピックがあると実感した」「欲しい作品があったので、購入しにまた来場しました」「丁寧にお話を聞いてもらえて良かった」「福祉について色々知る機会になった」など、イベント趣旨に沿ったお声を頂くことが出来ました。

■立川キャラバン隊「ひこうき雲」

12月4日(水) 10:30～12:00 立川市役所 208会議室

立川市手をつなぐ親の会で発足された立川キャラバン隊「ひこうき雲」の講演も今年で4回目、今回は内容も一新され、知的障害の「こだわり」や発達障害についてもわかりやすく親御さんならではの事例をもとにお話をいただきました。さらに知的障害を理解するきっかけとなりました。

■社会保険労務士による就労・年金無料相談会

12月5日(木) 13:00～ 立川市役所 208会議室

今回、5名の就労相談、年金相談を受けました。無料で社会保険労務士に相談できるということで問い合わせも多く、よい機会を作れました。

■立川市内 福祉作業所 作品販売会

12月6日(金) 11:00～14:00 立川市役所 多目的プラザ

昨年に続き、作業所の作品販売会を行いました。今回は、知的・精神に加え、身体の作業所にもご協力いただき、作品を販売することが出来ました。月曜日に来場された方が、欲しい作品があったということで金曜日にも足を運んでいただけ、とてもうれしく思いました。

■パラスポーツ「ポッチャ」体験&未来のパラアスリートによるトークショー

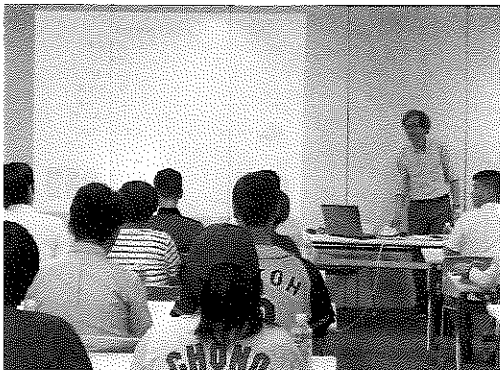
12月8日(日) 13:00～ 立川市役所 101会議室

今回はパラリンピックの正式種目にもなっている「ポッチャ」体験会を開催しました。「ポルテ多摩」という若手選手が中心で活動しているポッチャチームにご協力いただき、ルール説明や試合形式での体験など、障害のある方もない方も、子供から高齢の方まで幅広い年代、様々な方々と楽しむことが出来ました。障害者週間の趣旨である「障害の理解を深める」「障害者の社会参加」に沿ったイベントとして行いました。今後も実行委員会でも、より良い企画を実現できるよう進めていきます。

つるぞの まこと (鶴園 誠)

たちかわししょうがいしゃしゅうろうしえん

立川市障害者就労支援センター はたらこ



★「親亡き後の就業生活」に立ち向かう

金銭管理のセミナー開催!

当センターが就労支援を始めて、4月で20年目を迎えます。ご利用期間の長い方々が増えています。開始当時、養護学校(当時)高等部を卒業し、18歳で登録された方が今では40歳目前となっています。また病状がようやく安定し、小規模作業所に通われて企業就労へステップを踏み出した精神障害の方は、転職を含めて長く働かれ、気づけば定年間近というご年齢に至っていました。いずれの障害の方もご家族の支えがあって生活が安定し、そのうえで就業が維持できていました。既に単身生活やグループホームなどで、ご家族と離れて生活されている方もおられます。特に、重要な支え手である親御さんが高齢となり、ご本人の生活をみられなくなってくると事態は深刻になります。親御さんは、特段ご本人の世話をしているという感覚をお持ちではありません。しかし、雨風をしのげる住まいがあり、落ち着いて過ごせるプライベート空間があること、いつでも使えるトイレやお風呂があること、冷蔵庫を開ければ何かしら食べ物が入っている状況、何より地震や火事などの災害、本人の体調不良など突発事象が生じた際にも常に対応してもらえる見守り体制があること、これらは考えてみれば非常に重要な生活基盤と言えます。この基盤が整っていることで、ごく普通に働くことができます。親御さんによる支えが弱まっていくということは、この生活基盤の脆弱化に直結します。また、この基盤が整っていることと、ご本人が自立していることはイコールではありません。ご本人は自らこの基盤づくりに積極的に関与しなくても、通常親御さんがそれを整えてくれるので、その大切さになかなか気づけないのです。この点が、親亡き後のご本人の生活を考える上で大きな問題となります。ただ、これは障害のある方に限ったことではなく、自立の過程においてはごく普通の現象です。はたらこでは、現在当たり前にある生活基盤の安定を、親亡き後も持続させるには、支援機関など社会資源を活用しつつ、ご本人とご家族自身が積極的に意識して整えていく必要があることをお伝えしています。

それを踏まえて、昨年ゆうちよ財団から講師をお招きし、金銭管理に関するご本人と親御さん向けのセミナーを別々に開催しました。ご本人へは単身生活を想定し給料や年金といった収入から、具体的に必要な生活費や余暇に使うお金を一緒に考えていくような、分かりやすいお話しをして頂きました。また親御さんに対しては、将来を見据えた金銭管理の考え方や今からできる準備などについて、お話を伺いました。親御さんは、金銭管理についてご本人と向き合う不安や悩みを抱えておられましたが、講師の方から豊富な支援経験に基づくアドバイスをたくさん頂くことで、よい学びの機会になったと思います。自立においては、金銭管理は極めて重要なことの1つです。単なる貯金や資産の多寡よりも、ご本人の自立心(働いた給料で生活をしていく自覚と生活感覚)やそれを支援する体制を作っていくことの方が大切と言えるでしょう。今後もこうした機会を設けていきたいと思っております。

★はたらこセンター長交代について～ご挨拶

2001年就労支援センター開設当初から関わってきた井上が、3月で退職させて頂くこととなりました。それに伴いセンター長が、白部になります。ご利用者、ご家族、事業所様、関係機関の方々、長い間大変お世話になりました。引き続き当センターの支援についてご理解、ご協力頂けますようお願い申し上げます。
(井上 貴央)

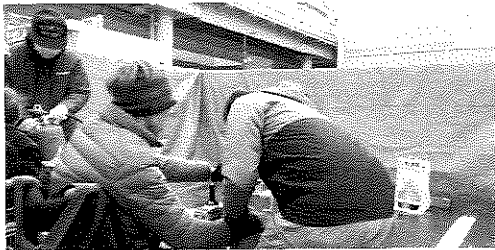
じりつせいかつぶ 自立生活部 — じぎょうほうこく 事業報告 —

■第8回体験型【防災フェア】に参加しました(12月1日)

毎年行っている防災プログラムの一環として、今回は立川南口防災フェアに、障害のある仲間たちと参加しました。

この防災フェアは、立川南口商店街振興組合が、警察・消防・陸上自衛隊・日本赤十字社・日本救助犬協会・日本防災士協会などの協力を得て開催されている体験型防災イベントです。

今回、体験をさせて頂きつつ、協力されている防災のプロフェッショナルの皆さんに、インタビューをさせて頂きました。



当日は、起震車、シートベルトコンビンサー(シートベルトを着用した時速5kmの衝突体験)、ロープワーク、水消火器、煙体験、ほのぼのあかり(ティッシュろうそく)作りなど等、可能な限りの体験をしました。これまで障害を理由に他の場所では体験を断られてきた方もおり、体験による学びはもちろんの事、体験自体ができることの喜びを満喫されていました。

インタビューは、参加者の心配事や知りたい事など、以下の具体的な質問をぶつけていきました。(抜粋)

Q. 救急車に車いすは乗せられますか?

A. 手動車いすであれば、折りたたんで乗せることができます。電動車いすは難しいです。(消防)

Q. 防災士は何人ぐらいいますか?

A. 全国で17万人ほどいます。障害のある人の救助スキルを身に着けるための研修も受けています。(防災士)

Q. 仕事で障害のある人に関わったことはありますか?

A. 緊急時には現場の最前線に行ってしまうため、なかなか関わる機会はありません。ただ、近隣の高齢障害者施設と協力をして、車いすの基本操作を学ぶ機会があります。(警察)

Q. 体験や演習を通して参加してくれたみなさんへ伝えたいことや、特に障害者の方へ伝えたいことはありますか?

A. 火を消すことはとても難しい作業です。まずは「火事だ」と大声で知らせることが大事です。軽くて扱いが簡単な消火スプレーを常備しておくとういでしょう。

A. 要支援登録(※)を是非してほしい。要支援の人たちは把握しているので、救助時確認し易くなります。

A. 火事の煙は、目が痛んで涙で開けられなくなります。煙は上に溜まるので、姿勢は低く、煙を吸わないように口をおさえ、周りが見えないので壁をつたって避難出来ると良いです。(消防) など等
極寒日の体験にも関わらず、防災のプロの皆さんの「防災について感じ考えてほしい!」というとても熱い思いを受け、障害のある私たちも改めて、自分たちの生活を防災の視点でしっかり振り返る時間となりました。是非、インタビューで教えて頂いたことを活かしていきたいと思ひます。(鈴木 徳子)

※要支援登録とは…立川市では、災害時に避難困難な方が、事前に「立川市避難行動要支援者支援制度」の「避難行動要支援者名簿」へ登録が可能です。市役所や地域包括支援センターで登録申請が出来ます。

■ I T プログラムを開催しました (9月20日)

自立生活センター・立川と関わりのある障害当事者の方を対象に、I T プログラムを開催しました。今回は、自立生活をしている障害当事者の生活をより豊かにする I T 機器の情報を提供することをテーマに開催し、5名の方に参加していただきました。

プログラムでは、まず、参加者全員で自己紹介をした後、肢体不自由者(車いすユーザー)・視覚障害者の2つのグループに分かれて活動しました。車いすユーザーのグループでは、グーグルホーム(スマートスピーカーのひとつ。無線通信接続機能と音声操作のアシスタント機能を持つスピーカーで、本体に話しかけることによって、天気予報の確認、簡単な調べもの、音楽の再生、スマート家電のコントロールなどが可能)や音声による文字入力等を紹介し、参加者の皆さんにそれぞれを実際に体験していただきました。

視覚障害者のグループでは、スマートフォンのスクリーンリーダー機能や、文字認識アプリ・物体認識カメラ等の便利なアプリについて、実演したり体験して頂いたりしながら紹介しました。

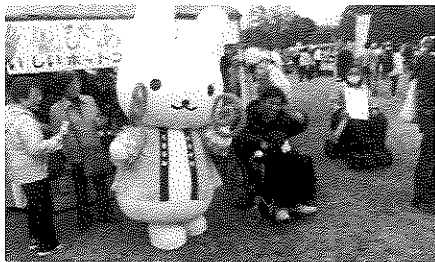
さらに、プログラムには、特別講師として、東京大学先端科学技術研究センター学術支援専門職員の奥山俊博氏にもお越し頂き、I T 機器に関する参加者からの質問にお答えいただきました。

プログラム全体を通し、スマートフォンをはじめとする I T 機器等について多くの質問が上がったり、参加者同士で会話が盛り上がりたりする場面が多くあったりしたことがとても印象的でした。また、参加者同士で I T 機器に関する情報交換を行うような様子も見られ、I T というテーマについて多くの障害当事者が関心を持っていることを強く感じました。

便利な I T 機器が登場することにより障害当事者の生活が今後もより豊かになっていくことを願うとともに、自立生活センター・立川としてもぜひまたこのようなプログラムを開催できればと思います。

(櫻井 未来)

■ たちかわ楽市2019～まち・こころ花めかそう!～に出店しました (11月3日)



秋の恒例イベントとなっている「たちかわ楽市2019」に、今回10回目となる「カフェぴあぴあ」を出店しました。出店に関しては、事前の準備から協力員の皆さんで役割分担をし、買い出しや小物作りなどそれぞれができることを担って活動しています。カフェぴあぴあは、出店を通し多くの方々に、同じ地域で生活している障害者や、自立生活センターの活動を知らせてもらうことを目的としています。

今年は、いつものホットコーヒーに加えて、ジュースやホットココアといったメニューも揃え、さらに子供たちには風船やお菓子も準備し、来て頂いた方に喜ばれるような工夫を盛り込んで出店活動をしました。当日は何とか天候ももってくれて、やや冷え込みましたが、コーヒーとココア、ジュースを含めて目標以上の430杯を超える売り上げとなりました。

大きな達成感はもちろんですが、何よりもこの活動を通し、地域の多くの方々との繋がりを感じました。今後もその繋がりを大切にしながら協力員の方々とともに活動を続けていきます。

(大石 幸治)

■ ランチタイム 新年ごあいさつ会を開催しました (1月2日)

昨年に続き、今年も1月2日12時から16時、新年ごあいさつ会を行いました。お雑煮をいただき、おみかんを食べ、天気にも恵まれ、暖かな日差しの中、お散歩がてら、諏訪神社へ初詣にも行きました。自立生活センターらしい会になったなと感じたことは、障害種別問わず、また、職員、



ボランティアさん、みんなで過ごせたこと、なかでもカードゲーム「UNO」をやる際に、やりたいけどルールが難しい、やったことがないという人に職員はもちろん、別の障害の方、ボランティアの方が「一緒にやろう」と自然にペアでゲームを行ったことです。地域社会でもこのような姿になったらいいなど、新年からほっこりした気持ちになりました。(奥山 葉月)

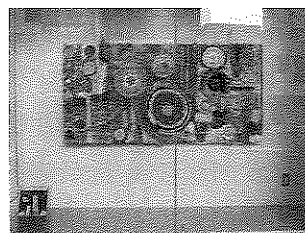
知的事業 *既刊の通信でご紹介できなかった企画についてご報告します。

■うっちい散歩特別編 アールブリュット立川2019 【9/20・10/4・10/25】

今年で5回目の開催となる「アールブリュット立川2019」。今回はメイン会場である伊勢丹立川店に加えて、多摩都市モノレールの駅構内の展示や、立川駅近辺の施設での展示を見てきました。各展示場所の様子をご紹介します。



←立川市役所窓口サービスセンター：大きいキャンバスに独特のキャラクターが描かれた玉川宗則さんの作品や、何人かで協力して作り上げた作品が展示されていました。



→立川タクロス mini ギャラリー：建物の壁面がガラス張りになっている展示スペースで、道行く人の

目に留まるような大きな作品が展示されていました。迫力満点です。



←多摩都市モノレール各駅（玉川上水・砂川七番・泉体育館・高幡不動）：立川市近辺の通所施設を利用されている方々の共同作品や個人作品が、事業所ごとにまとまって展示されていました。それぞれの事業所によって特色があり、展示を通して普段の活動の様子を垣間見ることができました。作品形態もさまざまで、飽きることなく楽しめる展示となっていました。

伊勢丹立川店：今年も個性豊かな作品がたくさん展示されていました。

買い物に来ているお客さんで、普段障害のある人と関わりのない方も展示会場に足を運んでいて、アールブリュットの広がりを感じることができました。実行委員長の松寄さんに、今年も取材協力していただきました。インタビューの一部をご紹介します。

Q.メイン会場では、今までの展示と違い小さめのアート作品や、共同作品が多いと感じました。その理由を教えてください。

A.小さい作品は、玉川宗則さんの個展で作品を見て素敵だと思ったので展示しました。共同作品は、個人作品とはまた違う、力強いパワーを感じたから展示しようと思いました。

Q.2020年も立川でアールブリュットを開催しますか？

A.はい、2020年も開催したいと思っています。次回は新たに昭和記念公園の花みどり文化センターでも、建物全館を使って展示をする予定です。

内山さんの感想：色々な作品がありました。チューリップの絵や毛糸で作ったチェアマットが、色々な色が使われていて綺麗でした。タコとワニの焼き物があって、タコが動き出しそうに見えました。松寄さんに、来年は昭和記念公園（の中の施設）でやると聞いたので、楽しみです。

(金井 春奈)



生活介護事業所 えんばわ

2019年11月1日より開所した「生活介護事業所 えんばわ」です。本通信より1ページをいただき、「えんばわ」の様子をお伝えさせていただきます。

「えんばわ」は月曜から金曜まで開所していますが、週に1回からご利用いただいているので、1日あたりの利用は少なく、のんびり、ゆったり、一人ひとりにあった居心地のいい時間、介助、活動を一緒に作っています。そんな中、少しずつ曜日ごとの雰囲気に合わせて、グループとしての活動も行いはじめました。

今回はグループで外出した「お出かけ企画」と職員紹介をさせていただきます。今後ともぜひ、えんばわをよろしく願います。

「お出かけ企画」皆さんと一緒に車でIKEAへ楽しく伺いました。売り場では、私自身の欲しい収納家具が展示されており、可愛いぬいぐるみも！欲しい物が沢山ありとても楽しかったです。収納グッズの売り場で、自分の部屋の参考にしたいと思いました！

レストランで皆さんと休憩して、楽しくお話しをして楽しいひと時を過ごし、とてもリラックスできました。私本来の目的の観葉植物をじっくりと観れ、お気に入りのサボテンを購入しました。

季節のクリスマスツリーなど、綺麗な飾りを観て購入されている方もいて、私も良い気分になりとても楽しかったです。大きい倉庫に出くわし、とても沢山の在庫がありました！とても凄いなあ～と感じました。(水曜メンバー 中島さん)

「職員紹介」

金井春奈：11月からえんばわの常勤職員として、利用者の皆さんとにぎやかな日々を過ごしています。自己紹介が苦手なので、職員や利用者の皆さんに私のイメージを聞いてみました。たくさんのご意見を頂きましたが、一言でまとめると「よく食べるオキャンなお天気お姉さん」とのことでした。「オキャン」という言葉は初耳でしたが、皆さんたくさん褒めてくださり嬉しかったです(笑) えんばわの元気印として、これからもよろしく願います！

渡辺紗織：10月からCIL立川に入社しました。いつかは関わりたいと思っていた福祉の世界に初めて飛び込みました。新人ですがいい歳です。「冷静」とか「しっかりしてる」と言われる(思われる)こともあります。結構抜けています…そして色々マイペースな私です。えんばわのスタッフ、利用者さんと様々な経験をし、日々楽しく過ごしていきたいと思っております！よろしく願います。

田中敬二：12月から、えんばわ職員になりました。以前は郵便局員でしたので業務の内容は違う部分が多いですが、出来ない事を年齢のせいにはしないをモットーに日々新しい仕事に取り組んでいます。利用者の方や職員の方々に一日も早く信頼して頂けるよう毎日を過ごしていきたいと思えます。硬い決意表明のようなご挨拶になってしまいましたが、今後ともよろしく願います。

(サービス管理責任者 奥山)



私たちの動き (10/1~1/31)

() は担当部門名 C I L ・ H L ・ 就 労

【イベント・行事の実施】

(C I L)

- ・ 出前講座 (3小, 4小, 5小, 8小, 9小, 10小, 幸小, 若葉台小, 西砂小, 6中, 砂川高校)
- ・ たちかわ楽市 (11/3)
- ・ 協力員歓迎会 (12/25)
- ・ 新年会ランチタイム (1/2)
- ・ 自立生活部・H L ・ えんぱわ合同新年会 (1/29)

(H L)

- ・ 立川市障害者週間イベント (12/2~8)

(就 労)

- ・ 親御様向け講演会
「親亡き後、自立のための金銭管理」 (10/31)
- ・ お楽しみ会 (1/10)

【連絡会・委員会・連携業務】

(C I L)

- ・ 清瀬療護園ピア・カウンセリング
(10/3, 11/14, 12/8, 1/27)
- ・ 立川市障害を理由とする差別解消推進
まちづくり協議会 (10/4)
- ・ 障がいのある人もない人も暮らしやすい
立川を考える会定例会 (10/4, 11/6, 12/16, 1/23)
- ・ たちせいれん (10/4, 1/24)
- ・ 立川市自立支援協議会全体会 (10/11)
- ・ 多摩療護園利用者・職員懇談会 (10/16)
- ・ 立川市指定特定相談支援事業所連絡会 (10/16, 1/21)
- ・ りらく定例会 (10/17, 11/21, 12/19, 1/16)
- ・ 立川市災害ボランティアネット定例会
(10/23, 11/20, 12/13)
- ・ 障がいのある人もない人も暮らしやすい立川を
考える会地区別懇談会 (10/28, 11/18, 26, 12/18)
- ・ 地域活動支援センター連絡会 (10/29)
- ・ 多摩療護園オンズパーソン
(10/31, 11/26, 12/27, 1/31)
- ・ 立川市交通結節推進協議会 (11/8, 12/5, 1/17)
- ・ 立川市障害者施策推進委員会 (11/8, 1/24)
- ・ 東京都相談支援従事者初任者研修検討会議 (11/12)
- ・ りらくピア交流会 (11/30)
- ・ 立川市人権学習事業映画上映会「星に語りて」 (12/8)
- ・ 立川市地域生活支援拠点プロジェクト (1/27)

(H L)

- ・ 立川市自立支援協議会全体会 (10/11)
- ・ 立川市障害者週間実行委員会 (10/31, 11/15, 1/10)
- ・ 立川市自立支援協議会相談支援専門部会 (1/14)

(就 労)

- ・ 多摩地域障害者就労支援事業
実施団体連絡会 (10/25, 12/20)
- ・ 立川市自立支援協議会就労部会 (11/12, 26, 1/16)
- ・ 東京都障害者就労支援協議会 (1/17)
- ・ 立川市自立支援協議会運営会議 (1/31)

【外部への見学・研修・イベント】

(C I L)

- ・ T I L 労働法学習会 (10/4)
- ・ 立川麦の会 心の健康を考える講演会 (10/19)
- ・ I L P リーダーズ (10/28)
- ・ 全国一斉行動! U D タクシー乗車運動 (10/30)
- ・ 相談支援従事者主任研修 (11/6, 7, 12/3, 18, 19)
- ・ 立川市自立支援協議会就労部会学習会 (11/12)
- ・ 中小企業センター研修 (11/13)
- ・ 立災ボ南口防災フェア (12/1)
- ・ J I L 関東ブロック・T I L 学習会 (12/13)
- ・ T I L 学習会 (12/23)
- ・ 東京都相談支援従事者初任研修 (1/14, 15, 16)

(H L)

- ・ 立川市小学校交流イベントコラボアート
第9小学校 (11/25) 第4小学校 (1/31)

【外部からの見学・研修・イベント】

(C I L)

- ・ 明星大学 (11/9)

【講師派遣】

(C I L)

- ・ 明治学院大学 (11/19)
- ・ 明星大学 (11/29)
- ・ I L P リーダーズ (12/6)
- ・ 立教大学 (12/12)

★ ご寄付等、ありがとうございました ★

- ・ 我部 仁志 様 ・ 大島 武史 様
- ・ 齋藤 尋 様 ・ 諸井 努 様
- ・ 片岡 稔 様 ・ 鈴木 正子 様
- ・ 黛 正 様 (順不同)

とくでいりえいりかつどうほうじん じりつせいかつ たちかわ
特定非営利活動法人 自立生活センター・立川
〒190-0023 東京都立川市柴崎町2-10-16 材ビル2F
TEL : 042-525-0879 FAX : 042-521-3134
URL : <http://cilt.sakura.ne.jp/>
Mail : cilt@sh.rim.or.jp



発行人

特定非営利活動法人障害者団体定期刊行物協会の定価は100円です。